

### 35. 潜水漁民の船上減圧法について

川畠真人 田村裕昭 高尾勝浩  
(川畠整形外科病院)

九州有明海には、多くの潜水士がタイラギ漁を行っている。彼等の中には、瀬戸内海や国東半島まで出稼ぎして潜水する者が多く、これらの地域では30～60mの潜水を行って漁をしている。

1970年頃より、船上に小さなチャンバーを積載した船上減圧法が流行しはじめ多くの潜水士が潜水病に罹患していることはよく知られているが、その潜水の実態はよく知られていない。

ここ1年間に当院にて減圧症や骨壊死の治療を行った潜水士達より、船上減圧法の詳細を聴取することができたので報告する。

彼等の船上減圧法の特徴は

- 1) 全く経験的な減圧法である
- 2) 個人個人が独特の方法を行っている
- 3) 救急再圧としても利用している
- 4) 職業上の必要性から利用している

ということである。船上減圧法により、潜水病が重症化したり、骨壊死の頻度が高くなっていることは予想されていたが、その実態を明らかにすることにより、減圧症の予防を検討することが急務であると思われる。

### 36. 全国潜水漁業者の実態調査

竹内久美 毛利元彦  
(海洋科学技術センター・潜水技術部)

【目的】全国各地の沿岸漁協における潜水業務の実態を把握する。

【方法】昭和60年3月より約1年間にわたり、全国2,135ヶ所の沿岸漁協を対象に、アンケート調査を実施した。本調査の内容は各組合における潜水業務の有無、潜水従事者の人数、性別、年齢層及び潜水法等についてである。

【結果】上記の調査漁協のうち2,125ヶ所(回答率99.5%)から回答を得た。潜水に従事している組合総数は881ヶ所(41.5%)で、このうち、魚貝類や海草等の採取を行っている、いわゆる潜水漁業を専業又は副業としている組合は776ヶ所(36.5%)である。潜水漁業を行っている組合数が最も多いのは長崎県の90組合で、山口県、三重県がこれに続く。全国の潜水漁業従事者数はおよそ22,100人であるが、年4ヶ月以上、潜水漁業を行っているのはこのうち約16,800人で、その内訳は男13,500人、女3,300人である。このように、彼らの大半は海士であるが、三重県の伊勢志摩地区、静岡県の下田周辺では海女が主体となっている。年齢別では30代から40代が最も多いが、地域により差がみられた。今回の調査で最も驚嘆したのは、海士、海女を含め70才代の現役ダイバーが全国に約150名もいることで、最年長者は今年80才である。潜水法は地域によって異なるが、潜水漁業を行っている組合の約7割が、昔ながらの素潜りを行っている。また、潜水時の服装は、ウェットスーツの普及に伴い、多くの漁協でこれを使用している。しかし反面、資源保護の面からその使用が許可されず、未だ『裸もぐり』を行っている組合が57ヶ所(約7%)あった。今回の調査結果から以上のような実態が明らかとなった。